

特別支援学級 第2学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 ことばっておもしろいな
- 2 教材名 「ものの名まえ」「おみせやさんごっこをしよう」(光村図書 下)
～おみせやさんごっこをしよう～
- 3 単元について

<目標> 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気づき、身近な事物を簡単に説明する文章に書いたり、客や店の人になってやり取りをしたりすることができる。
伝国(1)イ 書(1)イウ 話聞(1)ウオ

<教材の特性>

はじめの「ものの名まえ」の学習では、日々の生活の中で無意識に使用している語句に注目させて、一つ一つの物の名前やまとめた名前を活動を通して理解させる。次に、この学習を生かし、簡単な組み立てを考えて書くことや尋ねたり応答したりする活動を「おみせやさんごっこ」という遊びの中に位置づけ児童の主体的な活動を促す。そのために、できる範囲で品物を手作りさせ、愛着と自信をもたせながら、実生活につなげていけるように場を設定していきたい。

<単元を貫く言語活動>

- ・伝えたいことをちらしに書く。
- ・尋ねる。応答する。

<児童の実態>

2名の児童は、今年度は1年下の教科書を使用しながらことばや文の学習を進めている。知的障がい学級と自閉症・情緒障がい学級に在籍しているが、互いに刺激し合い、補いながら共に学習を進めている。しかし、2人とも教室を離れた場所ではうまくコミュニケーションがとれず、進んで自分からかかわろうとする意欲や態度に課題をもっている。

児童	普段の様子	付けたい力
A児	<ul style="list-style-type: none">・語彙が少なく、単語を2、3個つなげて話す。特に初対面の対応が難しい。・発音が不明瞭で声が低い。・書く活動では、時間を要する。(左きき)	<ul style="list-style-type: none">・語彙を増やす・伝える自信・コミュニケーション
B児	<ul style="list-style-type: none">・話を聞き取り、指示通りに動くのが苦手。・思い込みや人見知りをする。・気持ちを素直に伝えることに抵抗感がある。	<ul style="list-style-type: none">・成就感・聞き取る力・伝える喜び

<全員が「分かる」ための手立て>

- 活動内容や順序の明確にして見通しをもたせる。
- 目的意識や相手意識をもたせる。
- 書く活動や話す活動場面での個別的配慮をする。
- 「おみせやさんごっこ」でゲストティチャーに来てもらい、わくわく、ドキドキ感をもたせる。
- 他教科（生活科・図工・算数）との関連で指導の充実を図る。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く	話す・聞く	言語
進んで話したり、聞いた り、書いたりしようとして いる。	伝えたい事が分かるように 組み立てを考えてちらしを 書いている。書 (1) イウ	お客さんと店の人になっ て会話をしている。 (1) ウオ	意味による語句のまとまりや上 位語・下位語の関係を理解してい る。(1) イ (ウ)

5 単元の指導計画

次	時	学習活動	授業の工夫 *ユニバーサルデザインの視点	評価規準 (評価方法)
第一 次	1	・買物経験を話し合う。 ・P 6 0～6 1の2行を読み、上 位概念語について考える。	・近くの店の写真、市日のビデオを見せ る。 (視覚化) ・挿絵と文を照応させ、図に表すように する。	【 聞話聞 】買物に興味をもつ て話しているか。【 発言・態度 】 【 言 】上位概念語について理 解している。【 シート 】
	2	・P 6 1の2行～6 2の4行を 読み、下位概念語について考える。	・挿絵と文を照応させ、図に表すように する。(視覚化)	【 言 】下位概念語についてを 理解している。【 シート 】
	3	・P 6 2～6 3を読み、上位語と 下位語の関係についてまとめる。	・言葉集めをし、図に表すようにする。 (視覚化)	【 書 】上位語と下位語の関 係を理解している。【 シート 】
第二 次	4	・P 6 4～6 7を読み、どんなお 店を開きたいか考える。	・作れそうなものを考える絵本や見本を 提示。(焦点化)	【 聞 】開きたいお店を考えて いる。【 発言 】
	5	・お店で売る品物や値段をカード に書く。	・値段は簡単につけさせる。	【 書 】品物の名前や値段をカ ードに書いている。【 カード 】
	6	・ちらしの工夫を知る。	・例文を参考にとらえさせる。 (焦点化)	【 書 】必要な材料を集めて書 いている。【 ちらし 】
	7	・お店で売る人や買う人の話し方 を考える。	・会話の対応に気づかせる。(視覚化) ・役割演技	【 聞話聞 】売る人や買う人の 話し方を工夫している。 【 観察・発言 】
第三 次	8	・お店やさんごっこの準備をする。 (店の名前・品物・ちらし)	・ちらしを書いて直接届けさせる。 (共有化)	【 聞書 】来てほしい先生に向 けてちらしを書いている。 【 ちらし 】

本時	9	・お店の開店をする。 先生方と買い物ごっこをする。	・ゲストティチャーと事前に質問等の打ち合わせをしておく。(共有化)	【関話聞書】客とお店の人になって会話のやり取りをしている。[観察・シート]
	10	・お店の改善をする。 友だちにちらしを書く。	・買物から遊びへとつなげていけるように、売る品物を補充、改善させる時間の確保をする。 (共有化)	【関書】友だちに向けてちらしを書いている。[シート]

6 本時の指導

(1) 本時の目標

「売り手」「買い手」の役になって、応答しながらおみせやさんごっこを楽しむ。

(2) 個別の具体目標

児童	関・意・態	書く	話す・聞く
A 児	・進んで話したり、聞いた り、書いたりしようとして いる。	・空欄に言葉を書き入れて文を 1文以上まとめることができる。	・声の大きさに気をつけて応答し ている。
B 児	・進んで話したり、聞いた り、書いたりしようとして いる。	・視点にそって1文以上の文を 書きまとめることができる。	・質問を落とさないで聞き取り、 丁寧な言葉で応答している。

(3) 本時の展開 (焦点化☆ 視覚化□ 共有化◇ 評価◎)

段	学 習 活 動	指導の工夫	個別の配慮と評価
つ か む 5 分	1 本時の学習課題を確認する。 (1) 前時の活動を想起する。 「店の名前」「品物」「ちらし」 (2) 本時のめあてを確認する。 先生とおみせやさんごっこを しよう。	☆□◇ 店の絵を提示して 想起させる。 ・吹き出しで本時のめあて を意識づける。	◎ 関・意・態 A 児：ちらしを届けた先生を発 表できる。(発言) B 児：上位語と下位語の違いを 説明できる。(発言)
ま な ぶ 10 分	2 おみせやさんごっこの会話を 考える。 (1) 会話の順序が分かる。 (2) 気を付けることをとらえる。	☆□◇ 前時の会話の順序 を示した小黒板を見ながら 想起させる。 □ 板書に絵や図で焦点化 する。	A 児：挨拶のことばを想起させ る。 B 児：：会話の対応をさせる。 A 児：声の大きさや速さを意識 させる。 B 児：：落ち着いて聞き取ること を意識させる。

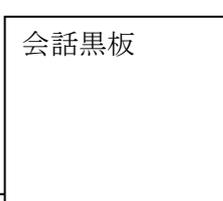
い か す 20 分	<p>3 おみせやさんごっこをする。</p> <p>(1) 準備 移動 持ち物</p> <p>(2) 開店 ・呼びかけ・あいさつ ・応答</p> <p>(3) 役割交代</p>	<p>◇お金にこだわらないようにさせたい。</p> <p>◇店の人は、ベルを鳴らしちらしを読んで開店の合図をするようにさせる。</p> <p>◇お客さん役の先生に登場してもらう。</p> <p>◇3人が買いものをした後閉店の合図をし、役割交代させる。</p>	<p>A 児：会話カードの掲示。</p> <p>B 児：カード以外の質問。待つ場所の指定。</p> <p>◎ 話す・聞く</p> <p>A 児：声の大きさに気をつけて応答しているか。(観察)</p> <p>B 児：質問を落とさず聞き取り、丁寧な言葉で応答しているか。(観察)</p>
ま と め る 10 分	<p>4 活動を振り返る</p> <p>(1) シートに記入する。</p> <p>(2) 発表する。</p> <p>5 次の買物ごっこの見通しをもつ</p>	<p>☆視点を与えて振り返させる。</p> <p>◇遊びの相手を広め、進んでかかわっていけるように意欲付ける。</p>	<p>◎ 書く</p> <p>A 児：空欄に言葉を入れて1文以上書きまとめることができたか。(シート)</p> <p>B 児：視点にそって1文以上の文に書きまとめることができたか。(シート)</p>

<資料>

○板書計画

今日の学習	
1	たしかめ
2	かいもの
3	こうたい
4	ふりかえり





かだい

おみせやさんごっこをしよう

○○先生
方と



<座席>

B 児

A 児

後ろ黒板 (おみせやさん)